

行雲流水

No. 8 令和3年4月5日発行

静かに「診る」「聴く」「想う」

校長 寒河江 正人

県内も「**桜の便り**」を耳にする季節となった。

4月1日の赴任以来、毎日、校舎に沿う「**桜のつぼみ**」が気になっていた。

つぼみは、グンと膨らみ、「緑色」から一気に「**ピンク**」へ。

そして、原稿を書いている今（3日・土曜日）、「**本校の桜**」がついに「**開花**」した。

明日6日（火）には、いよいよ生徒たちが登校してくる。

久しぶりに登校する生徒たちの「**心の中**」は、どんなだろう。

さあ、想像してみよう。

新任式、始業式。

「**新たな出会い**」を待っている生徒たちの「**心の中**」は、どんなだろう。

さあ、想像してみよう。

新学期。

かつて、先輩教師から「**黄金の3日間**」とか「**黄金の1週間**」と教えられたものだ。

「**一期一会**」。「**出会いは、最初が肝心。**」

だからこそ、

「**優しい笑顔**」で迎えたい。

「**温かい言葉**」で迎えたい。

「**落ち着き、安らぐ雰囲気**」で迎えたい。

「**そっと見守ってくれる人**」がいる。

「**そっと耳を傾けてくれる人**」がいる。

「**そっと寄り添ってくれる人**」がいる。

その「**静かな安心感**」があれば、この1年間、がんばれそうな気がする。

※校長だより「^{こううんりゅうすい}行雲流水」は、時には本校の教職員へ、時には生徒・保護者に向けて、発行します。（このNo.8は、生徒を迎える本校教職員に向けて発行したものです。）